

## 紙飛行機

二郎が中学一年の時の思い出である。

午後三時頃、二郎から紙飛行機大会に優勝し、賞品に自転車を貰ったから、レジャーセンターまで迎えに来て、と電話があつた。

二郎は小さい時からプラモデル、玩具、その他何でも興味ある物、片っ端から分解しては、組み立てて悦に入っていた。複雑で精巧な、プラモデル等を買って来ては勉強ソツチのけで組み立てて居た。

私は商売柄工具類は殆ど揃っている。ペンチ、ドライバー、ニッパー、半田ゴテ等々。私が、作業台に行くと、ニッパーが無い、ドライバーが無いというのは何時もの事である。子供の勉強部屋に行けば必ずプラモデルと一緒に転がっている。

洋一も二郎に負けず劣らずで、プラモデルに熱中していた。先の器用さと想像力は、小さい子供の時から馴れ親しんで来たプラモデル作りの延長線であるような気がする。

自動車で早速迎えに行った。まだチンチン電車が走っていた

四五号線を通り、レジャーセンターに行った。

正面玄関前に、両手で両脇に自転車のハンドルの中心を持ち、父親の来るのをずっと、立ちどろしで待っていたのだろう。その姿が今でも思い出される。一台は行くとき乗って来た自転車、新しい自転車は優勝賞品である。

傍を通った年輩の婦人が お宅のお子さんですか、良かったですね と褒めてくれた。

二、三日前二郎が来たとき、その時の様子を聞いたら、前日に急いで作って持っていた紙飛行機を改良して、紙飛行機大会に参加したそうだ。午前の飛翔距離の部で優勝し、午後の滞空時間の部でも優勝するつもりで、何回も飛ばして居たら、間違つて他人に踏み潰され、壊れてしまったそうだ。

午後の滞空時間の部で優勝した紙飛行機より、僕のが長かったから、自転車二台貰えたかも知れないと云っていた。